

編集後記

- ◇ 私の家庭菜園では毎年、夏野菜の一つとして露地トマトを栽培し、8月下旬～9月上旬で収穫を終えていた。2014年は忙しく菜園は手抜き状態で、トマトも放置していた。すると、10月に入ってもかなり収穫があり12月2日まで収穫できたのである。トマトは、寒さに弱い作物と思っていただけに驚きであった。

サツマイモの専門家である小林 仁氏から、次のような話を聞いたことがある。サツマイモは熱帯・亜熱帯性作物と言われ、一般的に沖縄県や南九州地域がその適地と見なされている。だが、サツマイモの栽培特性からみると茨城県を初めとする関東地方が栽培の最適地だというのである。これらのことから、トマトやサツマイモの生命力の強さや順応性の高さを改めて再認識した。

- ◇ 11月14日、茨城県のJAなめがた管内におけるサツマイモの生産、貯蔵・出荷状況を見学し、将来構想なども聞いた。サツマイモ畑は、霞ヶ浦と北浦に挟まれた海拔30～40mの台地に広がっている。水はけの良い土壌で、サツマイモ栽培には最適地である。大型のキュアリング処理・定温貯蔵施設も見たが、印象に残ったことは、貯蔵管理は機械が自動的にを行っているものの、最後は人間の目視で再確認を怠らないという言葉であった。

注目すべきは、JAなめがたと白ハト食品工業（株）の共同出資事業であるサツマイモを核とした「なめがたファーマーズヴィレッジ」構想（総事業費約45億円）だ。現在、事業が進行中であり、2015年10月には一部オープンの予定である。サツマイモ産業の飛躍が期待できる大構想だ。

- ◇ 本誌No.122では、特集として「いも類の新品種紹介」をとりあげた。サツマイモでは作物研究所が育成した青果用の「からゆたか」を育成者に解説いただいた。ジャガイモでは農研機構北海道農業研究センターが育成した青果用の「あかね風」を、でん粉原料用では道総研北見農業試験場が育成した「コナユタカ」およびホクレン農業総合研究所が育成した「コナヒメ」を、それぞれ育成者の方々に解説いただいた。

紹介した4つの新品種は消費用途に応じて、地域特性を活かしながら普及していくことを見守りたい。

- ◇ 『焼きいも事典』は、2014年10月末に発刊され、11月からいも類振興会で直売している。本誌の総説で「焼きいも事典の概要と編集余話」と題し紹介したので、お目通し願いたい。事典は手ごろな販売価格としたので、購読いただければ幸いである。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第122号

2015(平成27)年1月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社